

大木工藝(大津市)

大木武彦社長(申)

炭素を主力に事業転換

合成樹脂を用いた絵画加工は軌道に乗ったが、原料の値段が年々上がり、次第に利益が出なくなつた。全て自社加工だつたため、人件費や設備投資費がかさみ、経営は厳しい状態が続いた。

16年前のある日のこと。加工中の樹脂で覆つた絵にかぶせた保護用フィルムを剥がそうとしたが、うまくいかずに入墨が樹脂ごとフィルムにくつついた。「壁などに粘着性のある樹脂を塗つてインク

を写し取れば、好きな場所に絵が印刷できそうだ」とひらめき、「常温転写トランスター」の特許取得につながった。

電力会社や建設会社など十数社に対し、転写技術を使う

一方、使わずに余る合成樹脂をどう活用するかが課題として浮かび上がつた。合成樹脂を共同開発した龍谷大教授の助言を受け、炭化することに成功した。

合成樹脂でアレルギー症状が出た経験から「自然由来の素材を扱いたい」と考えていた。樹脂を焼いた炭で土壤の緑化や水を浄化する製品を開発できたこともあり、「合成樹脂で事業を続けてもじり貧だ」と覺悟を決め、思い切つて炭素を主力に事業転換した。



炭素入りのブロックを手にする大木社長(大津市で)

会社



* 近畿

権利を売る形で契約。路面や壁など凹凸のある素材にも転写できるため、ホテルの壁画やサーキット場壁面へのスポーツサインの印刷など需要は幅広かつた。